

玄海及び川内原子力発電所に係る津波影響の試算概要

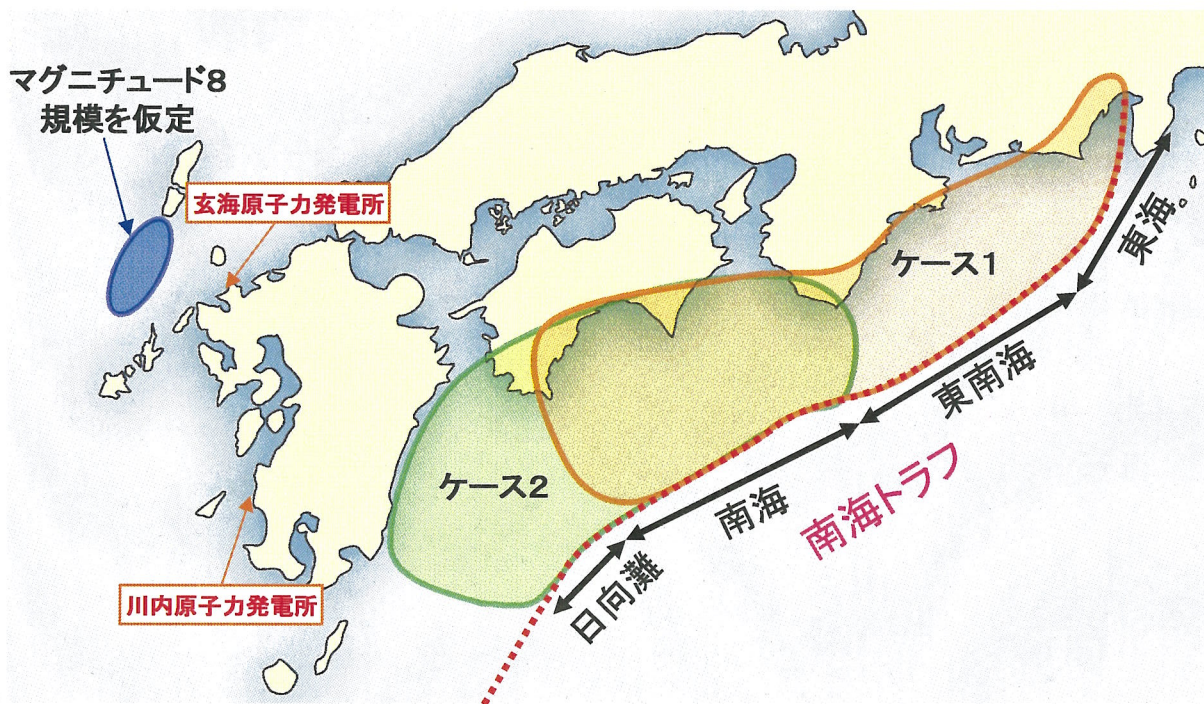
- 平成18年に改訂された耐震設計審査指針を踏まえた耐震安全性評価では、詳細な地質調査結果や最新の知見を基に、津波を適切に評価し、国へ報告しました。
 - ・玄海原子力発電所:平成21年6月及び平成22年3月最終報告書提出済
 - ・川内原子力発電所:平成20年12月最終報告書提出済
- 今回、東北地方太平洋沖地震(マグニチュード9)を踏まえ、九州近傍のプレート境界である南海トラフ沿いにマグニチュード9の地震を想定し、津波の影響を試算しました。
- また、念のため、玄海原子力発電所周辺海域のプレート内にマグニチュード8規模の地震を仮定し、津波の影響を試算しました。

[津波の試算ケース]

ケース1: 東海、東南海、南海地震の連動型 [マグニチュード9] (中央防災会議モデルを基に設定)

ケース2: 南海地震、日向灘のプレート間地震の連動型 [マグニチュード9]

(中央防災会議モデル及び地震調査研究推進本部モデルを基に設定)



[津波影響の試算結果]

* 潮位(玄海:+1.31m、川内:+1.38m)含む

	玄海原子力発電所	川内原子力発電所
ケース1における津波高さ	海拔1.5m程度	海拔2.2m程度
ケース2における津波高さ	海拔1.6m程度	海拔2.5m程度
参考	海域のプレート内にM8規模を仮定した津波高さ	—
	耐震安全性評価における津波高さ	海拔3.7m程度 (M8. 1)
	敷地高さ	海拔13.0m

※ 玄海及び川内原子力発電所の揺れについては、いずれのケースにおいても、基準地震動Ssを十分下回っています。